

第30期社会教育委員の会議

第11回定例会

令和6年2月16日

【1】開催日時

令和6年2月16日（金）18時30分～19時40分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、奥平委員、峯岸委員、豊田委員、村上委員、村内委員、佐藤委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

渡邊生涯学習課長、佐々木社会教育係長、御園生社会教育担当係長、社会教育係主任

【5】傍聴人

なし

【6】次第

1 第10回議事録の承認

2 議事

（1）第30期社会教育委員の会議活動報告書（素案）の検討

3 その他

（1）今後のスケジュールについて

午後 6 時30分開議

○議長 ただいまから第30期社会教育委員の会議第11回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、堀井委員、新海委員、山崎委員が御都合により欠席との連絡をいただいておりますので御報告いたします。

それでは、議事日程に従い進めます。

今日は、大きな話題としては2つなのですが、議事に入る前に、第10回議事録案の承認でございますが、事務局より事前に連絡がありましたので御覧いただいていると思いますが、何かお気づきの点があればこの場でお申し出いただいて、皆さんと確認したいと思いますがいかがでしょうか。

大丈夫でしょうか。もし何か打ち間違いなどがありましたら、この後でも言っていただければと思いますが、問題がないようでしたら御承認をお願いいたします。

ありがとうございます。それでは、この会議終了後、峯岸委員と奥平委員、署名をしてくださいますようお願いいたします。あわせて、今日の議事録の署名については、豊田委員と村内委員をお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版が配付されるとのことでございます。いつもと同じです。

では、議事に移ります。先ほども少しお話ししましたが今日大きく2つの話があります。1つ目が、今期の第30期のまとめとして、短い時間でありましたけれども、事務局から送られた素案にお目通しいただいていると思いますので、この素案の全体の構成について皆さんから御意見等をいただきたいと思います。何かございますでしょうか。

途中、「作成中」となっている箇所もありますので、その部分は次回までに完成させてまた見ていただく予定ですが、大きな構成として、何かお気づきの点があったらお願いしたいと思います。

この中に第29期の経験された方もいらっしゃると思うんですが、そのときと比べていかがですか。基本的には同じようなスタイルでつくられていると思います。

まず、「はじめに」があり、その後に、第1章が「地域資源を活用した新たな連携・協働の実践的モデルづくりの検討」となっていて、それがこの30期に課せられた大きな課題だったわけですが、その背景や目的、そして、どんなふう to それを検討していくのかということが第1章で整理されております。

3ページから6ページは、後にもまた出てきますけれども、委員の皆様が今までされて

きた取り組みを4つ取り上げて、活動をする上で大事にしているものについてディスカッションをしたり、ホワイトボードを使いながら整理していったものを要約してあります。

その後、第2章では、今申し上げたような、それぞれの活動が長く続いている背景、秘訣のようなこと押さえた後、「地域資源活用型連携・協働モデル」というものをどんなふうにこれから展開していったらいいのか、そのヒントになるものは何だろうかということで、「試行的実践」という話が出てまいります。

これも、「世田谷ぶんか村PLACE」、「校内居場所カフェ」、「おやじの会」、「東深沢カフェ」として、前回、前々回と報告をしていただきましたが、そこでの話を整理して、その後、第3章として、「地域資源活用型連携・協働モデル」と名づけられています。「実践的試行」をしながら研究していった成果はどんなところにあるだろうかというのを、第3章においても一度整理し、まとめるという構造になっております。

いかがでしょうか。

○事務局 具体的な中身ではないのですが、第2章の7ページ、13ページ、15ページにおいて、お三方が発表いただいたときの資料に基づいて、写真を掲載させていただいているんですが、このような形で載せてもよろしいのかどうかという確認をこの場でさせていただければと思います。

写真があったほうが見やすいというか、イメージもしやすいということで入れさせていただきました。なお、「校内カフェ」に関しては写真がなかったので、もしこういうものがあるよというものがあれば御提示いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 写真について、いかがですか。

○委員 大丈夫です。

○議長 個人が特定されないようなサイズになっているかなと思うんですけども。

○事務局 本日、山崎委員が欠席ということになりますので、15ページは事務局のほうで確認させていただきます。

○委員 おやじの会については、13ページの「学校でキャンプ」というこの写真のことを言っているんですね。

○事務局 そうです。

○委員 全然大丈夫です。

○議長 確かに写真があったほうがいいですね。こちらのほうがいいという写真があったりすれば、事務局にお知らせいただければと思います。

そのほかいかがでしょうか。

○委員 「校内カフェ」だけに枠囲みがされているのは何か意味があるのでしょうか。

○事務局 ここはヒアリングということなので。

○委員 それで、こういう形に。分かりました。

○事務局 もう少し具体的にお話ししますと、9ページを御覧いただくと「5) ヒアリング」で、例えば一番上、区立中学校の校長先生にお尋ねしたところが「黒ポチ」、校内カフェに対する感想で「矢印」がお答えになったというイメージです。

○議長 よろしいですか。確認作業は次回も続けます。

○事務局 そうですね。今日いらっしゃらない方も、修正も含めて御連絡があれば、直したところを含めて。

○議長 「作成中」のところも、今回は作成されているということですね。

では、特に御意見がなければ、現段階ではこういう方向性で進んでいるということをご承認いただいて、特に御自身のパートなど、気になることがあれば事務局に確認していただければと思っております。固有名詞なんかは出ないようにしたんですよ。

ありがとうございました。では、議題1の報告書の件はこれで終了したいと思います。

続きまして、前回、前々回と活動報告をしていただきましたので、その感想を。それからギャラリーがいらしたので、その後、関係者の方に何か機会にお会いになっているかもしれませんが、そのときにどんなお話があったか、どんな印象だったかということもお聞かせいただければと思っております。

では、活動報告をしていただいた順番で、まず、委員の感想を。それから、関係の方はいらしていませんか。

○委員 関係の方は来ていないので、その感想はないのですが、

「校内カフェ」をずっとやりたいと思っていて、このきっかけがあって、そしてこういう形で少しまとめてみて、実際にニーズがあるのかとか、どう思っているのかというヒアリングをした中で、それぞれの立場、それぞれの思いというところがあって。1つちょっと弱かったなと思っているのが、地域の人の声という、この中学校のある地域の実際一緒に活動するであろう人たちの声を拾っていなかったなと思っております。

私のやっている活動上、少し学校に行きづらいお子さんたちとよく会うことが多いので、行きづらくなる手前で、こういう何かちょっと居場所があるといいなという声を、保護者の方もお子さんからも聞くことがあるので、ゆっくり急がずに温めて行かれたらなという

気持ちであります。

○議長 今のお話について、何か皆さんからありますか。

学校に行きづらくなる前に、少し関わりを持てる場を、ということですがけれども。

○委員 私は学校の中に入っていないくて、外からの、いわゆる地域の一住民的な意見なので、また校長先生の話も聞きながら、学校には学校特有の、また地域ごとのそれぞれの課題とか思いもあるので、最初にざっくりと示したイメージ図は、このイメージのようにはなかなかならないだろうなど。ちょっと後ろ向きな意見になってしまうんですが、世田谷区はとても先進的な取組が、子どもに対してもいろいろな活動がすごく多いということもあるので、1つのモデルを各地で作りながら、それが広がっていくような、そんなイメージが抱けたらいいな、と思っています。

○議長 今、言われたイメージ図というのは、25ページですね。

○委員 そうです。これは一番最初に出したもので、それからもう1回、もうちょっと現実的に落とししたのをお出ししているんですが、こちらを採用されたのには何か意味があるのかな、と。これは1回目に出した資料で、発表前に出したのは少し変わっているのです。

○事務局 では、そちらと差し替えます。

○議長 2回目の資料だと、どこが変わっているんですか。

○委員 こういうシステムチックなものというよりは、もう少し、現実的に自分のできることに落とし込んだものにしました。今回のこの活動、ヒアリングに行くまで、こちらの実際に起こった行動に対して近いものを提出しています。

○議長 今日はいろんな御事情で、いらしていただけなかった委員の方もいらっしゃるのですので、次回、最後のときに、もう一度、全体を振り返った御意見や御感想をいただきたいと思っております。ありがとうございました。

では次に、委員お願いします。

○委員 私が発表したのを聞きに来てくれた人に、感想をお願いしますといったところLINEが来たんですけども、飲みにケーションって本当に大事なんだろうとか、私たちやっぱり主婦というか、お母さんたちはあまりそういうところに行かなかったから新鮮だったのかもしれないんですけども、皆で帰りがけにちょっと話をしたのが、学校協議会なんてもう古くなっちゃっていて、全然機能もしてなくて、地域とつながっていかないよね、みたいなことを、エレベーターの中で話したとか、それから、学校の先生とのコミュニケーションが不足していることはもちろん分かっているけれども、またここで

「働き方改革」なんて言われると、そっちのほうどんどん削られていくんじゃないか、コミュニケーションが難しくなっていく、ということに心配するような感想が私のところには来ていました。

このまとめについては、地区委員会がやっているのが「おやつステーション」、学習塾の「プレミ」はNPOがやっているんですけども、ちょっとここがごちゃ混ぜになっているような感じがして、取り立てて分ける必要もないのかもしれないんですけども、地区委員の人たちがこれを読んだときに、「プレミ？私たち、知らない」みたいなことにならないかな、というのがちょっと心配。「プレミ」はNPOとして有志が立ち上げた会なので、その土台になっているものは同じなんですけれども、違うと言われたら困るなと思いました。

○議長 事務局、ご指摘があった点について、次回までにもう少し整理できますか。

○事務局 可能です。逆にこういうふうに直してほしいということだけでいただけると。

○委員 分かりました。

○議長 関係者のみなさんが読んだときに分かるように整理できたほうがいいですよ。全く事情が分からなくて読む人は、そういう活動をされているのかなと思うんですけども、一番近いところにいる人が、これとこれはちょっと違う、と感じてしまいそうなのであれば、まだ修正がきくので、ぜひ指摘していただいて、整理できる部分は、ぜひ、お願いします。

○委員 そうしたら、データで送っていただくのがいいんですけども。データで送っていただいていたか。PDFでしたか。

○事務局 ワードで送っています。

○委員 それを直して送り返させていただきます。

○事務局 よろしく申し上げます。

○議長 学校協議会は、世田谷区が全国に先駆けて区立小・中学校に設置したもので、平成9年でしたか。

○委員 震災の後ですよ。

○議長 そうですよ。平成9年度から始まったもので、かつて「学校協議会フォーラム」なども開催されていました。その後、似たような国の制度にいろいろとできてきて、わかりにくくなってきていることが指摘されています。

学校協議会は、学校と家庭、地域住民、そして関係諸機関のさらなる連携・協力をめざ

して設置された組織で、「子どもたちの健全育成、地域の防犯・防災、学校教育の充実」の3つに取り組んできました。理念としては素晴らしいものでありますが、現在では、学校運営委員会をはじめとして、他にも、いろんな制度ができてしまったので、学校や地域によって、学校協議会の位置付けや活動内容に大きな差があるようですね。

○委員 その何かが機能しているということではなく、ただ開けばいいんでしょうということになってしまっている。コロナがありましたが、コロナのときもしなかったですよ。うちのほうの学校は。日程を調整するのとても大変そうで、あまりそこに意味を見いだしていないような、そんな印象がありました。

○議長 学校協議会はどこかの管轄なんですか。

○事務局 地域学校連携課ですね。

○議長 今は、生涯学習課ではない。

○事務局 ないです。

○議長 ということらしいです。多分、制度の趣旨は大事にしているのですが、うまく整理がついていなかったり、難しい面があるのかなと思いますけれどもいかがですか。

○委員 今、学校運営委員会ぐらいしか、実際は動いていないんじゃないですかね。学校協議会は、お話があったようにコロナがあったので、大分薄まってしまったし、あと、防災を担われる地域の方々が高齢になったので、酷暑の9月1日とか防災の日とかをやろうとするとやっぱり限界がありますよね。だから、その辺の日をずらしてくれと言われている地域もあったように聞いているので、また違う意味の難しさがありますよね。

○議長 ということのようです。

○委員 コロナの間に高齢化したというのが、すごく分かります。久しぶりに近所の人と会ったら、随分、年を取っちゃったなという感じが分かるなど。本当に失われた4年間だった気がします。

○委員 うまく代替わりができていない、という感じがしますね。

○委員 今の学校協議会の話と、学校運営委員会を出されたんですが、学校運営委員会というのは機能しているんですが、学校協議会については、私の担当校では、「防災」関連の一つです。学校協議会イコール防災。健全育成だとか、安心安全というのはなくなっていますね。それで、学校運営委員会は、健全育成を主にして、学校の安心安全という形で。ですから、学校協議会については、現役の保護者の方はクエスチョンが多いんじゃないかというイメージです。

○議長 いろんな会議体があるので、教育委員会としても少し整理が必要だと考えているのでしょね。関係者評価委員会もありますし。ただ、紙の上で整理はできても、人々の意識のなかでは、昔を知っている人もいるので、まだ、うまく整理できていないのかもしれませんね。

○委員 昔は外部評価委員から始まって、どんどん名前が変わっていった。

○委員 学校コーディネーターとか、いろんな人がいますよね。

○議長 今回、初めての試みとして、私たちはあのような報告会を開催したわけですが、報告会に参加されたことへの感想はいかがでしたか。こういう機会があれば、たまにはいいとか、聞いてみてよかったとか、そういうのはありますか。

○委員 社会教育委員会ってこんなことをしているんだということが新鮮だったと言っていました。偉い人たちが全然分からないような話をしているんじゃないかと、身近に自分たちがやっていることがそうなんだというふうに思えた。

○議長 そういうご意見はうれしいですよ。

○委員 青少年委員会で参加させていただいて、2回参加したんですけれども、この会場に入っただけで空気にもまれて、校内カフェですとか、いろいろな取組がすごいなど。だけれども、感想までに至らなくて、ドキドキしながら座っていたというのが。

○議長 そういう方もいらしたと。

○委員 だから、もう少し情報発信、この会議をやっている途中で、青少年委員の方々にもう少しかみ砕いたものを情報発信できればなど、今現在まだ終わっていないんですけれども、今2年を通してやってきて、こういう会に参加させていただいたんですが、青少年委員に話しするというのはなかなか機会がなかったものですから、感想もなかなか出てこないというのは、私の反省だなという部分もあります。

○議長 貴重な御意見、ありがとうございます。事務局は、今のよう意見を参考にしていただいて、今後、どこかで工夫していただければと思っております。ありがとうございました。

では、委員の御発表については、これで終えたいと思います。

次に、おやじの会関係ですが、いかがでしょうか。

○委員 おやじの会の活動について、動画だったり、それを説明するものをつくってくれとおやじたちに頼んだときのコメントが26ページにあります。そこで僕が期待していたのが、意欲的なおやじに、こんなことはできないか、と投げたときに、びっくりするような

成果が出てくるだろうということでしたが、今回の動画を見て、そのとおりだと思いました。

かなりクオリティーも高いし、僕が今回、おやじの会について話したい「学校との協働」ということに対して、皆さんに説明したいと思っていたことが丸々その動画の中に入っていて、僕が指示したわけじゃないんですけれども、だから、やっぱりおやじの会を一生懸命やっている人たちが思っていることは変わらないんだな、というのを実感したという意味で、非常によかったとというのが僕の感想なんです。

おやじの会では、現役のおやじが多いので、この報告会を見に来るということはなかなかできなかつたんですけれども、意見として出ていたのが、これはZ o o mで見れないですかとか、会場には行けないけれども、後からその発表の内容とかを知り得ないんですか、と。事務局に聞いたら駄目だと言われて、それってどうなのかと思ったのもあって、いろんなお話しにあったように、素晴らしい活動をされているということを告知するというか、いろんな人に知ってもらう意義はあるんじゃないかと思うし、それをこの中だけに閉じ込めておくというのは・・・。こういう形で議事録という形で出るんでしょうけれども、じゃ、これが出たときに誰が読むんですかとも思うし、さっきの青少年委員もそうですし、僕、青少年委員を知らなかったし、学校コーディネーターは確かにうちの学校にもいたけれども、何なのか分からないみたいな、そういういろんな取組をして、そういうことを世田谷区はやっているんでしょうけれども、それをどれだけの人が知っているんだろうと。

僕も結構、学校に関わって、おやじの会ではいろいろやっていたりとかするけれども、それでもそれは何？みたいなことがあまりにも多いなと思うので、Z o o mまでいくかは分からないですけれども、広くいろんな人にその活動だったり、こういう取組をしている人たちがいるし、そういうことを知ってもらうという機会がもっとあったほうがいいんじゃないかと思います。

○議長 ちょっといいですか。今の話で、Z o o mというのは報告会に限った話ですか、それとも報告会に限らず、委員のイメージとして、例えば、今日のこういう会議なんかもですよね。

○委員 そうです。別にやましいことはないじゃないですか。一般の人に聞いてもらっても。

○議長 そうした点について、行政の会議体の規則として何かあるんですか。例えば、傍聴についてのきまりはあるでしょうが、それができたのは一時代前の話ですよ。だから、

Z o o mみたいなものは想定されていないと思うんです。なので、傍聴は歓迎しますと言ったとしても、実際に、傍聴に来られる人は少ないわけで、開かれた教育行政とか、市民参加とか言うのであれば、傍聴以外のことが可能かどうかは検討していただきたいと思います。

○事務局 リアルタイムで本当にできるのかどうか、また必要なのかどうか。それから、それによって委員の皆さんの発言が制限されるということもありますので、今日いただいた御意見は、参考にさせていただきます。

○議長 いろんな問題があると思うんですけれども、ぜひ、検討をお願いします。おそらく、社会教育委員の会議だけじゃなくて、ほかのいろんな会議、全体にも関わってくるのだと思います。これまで以上に発信するというようなことができるのであれば、それはもう社会のあり方が変わっていますので、してよいのではないかと思います。個人的な意見ですが。

教育委員会事務局においても議論していただければなと思っています。

委員、ありがとうございます。逆に言うと、遠隔で見られるということがあれば見てもいいよと思っている方もいらっしゃるということですね。

○委員 あると思いますね。僕がおやじの会に来てと言ったときに、来られないんだけど、そういう手段はないんですかと。それはコロナを踏まえて、みんなそういう感覚が備わってきたからというのがすごく大きいと思うんですけれども、そういう手段はないのかと言われて、それはそうだなと思って。その現場にはいなくても内容を知りたいという人は、おやじの会だけじゃなくても、ほかにもいるんじゃないかという気がします。

○議長 「開かれた」とか「市民参加」と言うんだったら、参加できるように開いていく方策が必要ですね。

○委員 おやじの会をやっていると思いますけれども、とても意欲的な人って、そういうことをやっているのを知れば、自分もそれをやってみたいんだけど、みたいな人が出てくると思うんです。おやじの会から見るとP T Aもそうですけれども、やらされて、やらなきゃいけないとなると、みんな逃げるんだけど、こういうことをやっているんだけど面白いからやってみないか、と。まさにおやじの会ですけれども、そういう状況をつくると、すごくポテンシャルのある人がこの地域はすごく多いんじゃないかなと思っています。だから、そういう情報公開だったり、こういう活動をしているみたいなことをもっと知らしめたほうが、いろんな協力者が出てくるような気がします。

○議長 ありがとうございます。ご指摘いただいたことを今後、いろんな形で検討して、どこかで一部でも実現できたらいいなと思っております。ほかはいかがでしょうか。

もう一つ、東深沢スポーツ文化クラブの話がありますが、今日は山崎委員が事情により欠席されておりますので、これは次回ということにしたいと思っております。が、他にも欠席の方がいらっしゃいますので、次回、全体を振り返って感想をいただいたり、今後、こんなことができたらいいなという御意見を頂戴できればと思っております。

全体を通じて、今日の主な議題は、先ほどの報告書の大きな骨格についてと、2回にわたって行いました報告会のことについての感想や御意見を伺うということでしたけれども、それ以外に何かございますでしょうか。

○事務局 今、活動報告に関して御発言いただいたんですけども、報告者だけではなく、ほかの委員の皆さんからも、報告を受けて、どんなふう感じられたのかというのも事務局としては聞いてみたいなというところもありますが、いかがでしょうか。

○委員 23ページの下のところ共通項として挙げていただいたところなんですけれども、企画段階から子どもも参画させてくださいというような意見を自分も言ったような記憶があるんですけども、最近思うんですが、ここまでの実践のところで見ると、この子どもというのは中学生からなんですよね。この前、土曜日のみなまちプロジェクトに行ってきたんですけども、中学生以上の参画で、小学生が入り込める隙間がないのかなと思ったときに、ちょっと複雑な心境になるんですよ。でも、小学生でも、教育長がよく言うんですけども、子どもが考えたものを聞く場を設けて、アイデアに生かしていくということをしましようよという声かけをこの頃よく聞かれるんですけども、よかったそういう時代が来たかと思うけれども、やっぱりこういう例で語られるときの子どもというのは、中学生なんだな、小学生は何ができるのかなとずっと考えています。

用意してもらったものを楽しむだけではなくて、それこそ一緒になって作り出すようなところに、自分のところの子どもはどうか、見ていてすごく楽しみを感じているので、前はうちの学校にもおやじの会が用意してくださった楽しい卒業企画とかそういうのがあったんだけど、この頃はやっぱりそれだけでは駄目で、その企画を一緒に考えるところから、子どもがばんばん意見を言うんですね。その実現に、おやじの会のほうも、それは無理とか、それならできるとかというふうにしてつくり上げていくようなものになってきて、最後、卒業していくという感じになっているんですけども、小学生もこの地域の中に巻き込む何か、まだ早いのかなと、ちょっと分かりません。皆さんから御意見を

聞きたいところではあります。

○議長 他区の例ですが、「コミュニティ・スクール・デイ」と題して、学校運営委員会に相当する委員会に児童の代表が参加して、自分たちの学校のいいところややりたいことについて、地域の人や校長先生らと「熟議」をする、という企画に参加してことがあります。そこで子どもたちが提案したことなかで、実現できそうなことは、実際に取り入れていこうとしていました。

○委員 それは学校への要望ですか。

○議長 今年から始まったことなので、何をどのようにやるかは学校に任せられているようですが、子どもたちが学校のよいところを地域の人に伝えたり、学校でできることややりたいこと、例えば、給食を縦割り班で食べるとか、校内を花でいっぱいになりたいとか、小学生らしいアイデアがたくさんでていました。それらを実現するためにはいろんな制約があるでしょうが、先生方は頭から駄目とは言わずに、子どもたちといっしょに前向きに検討していこうとしていました。

なので、小学生は小学生なりにうまく話の場を持つことができれば、可能性があるんじゃないかなという気がします。

○委員 連携というふうになっていた場合に、学校から外に出ていきたいという要望がもう既にあるんですね。子どもが地域の何々をこうしたいとか何とかというのが出てくるわけなんです。なぜかというと、社会科で勉強する、その町のいいところはこういうところとかというのを勉強していくと、最終的には、もっとこうしたらいいんじゃないかというところまでいくわけなんです。そのときに、それを本当に実現できるものにできたら、勉強というか、学習としてはすごく深いものになって、本当にそれで地域の方々が本気でやってくださるとしたらすごいなと思っているんですけども、まだ、ここで、今この会議で開かれている内容は、やっぱり中学生なんだなと思っています。

○委員 うちのぶんか村はほとんど小学生が主流なので、小学生の子たちが中心なんです。小学生でも社会に貢献しよう、地域貢献をしようという取組をして、それは何かと考えたときに、まちづくりセンターの隣が保育園なので、保育園の子どもを楽しませるお祭りを自分たちでやると小学生が言ったんです。小学生は、自分は少し前に保育園に通っていたから、中学生よりも僕たちのほうがよっぽど保育園児の気持ちが分かるんだ、とすごく大張り切りして、それで、保育園の子はこういうことが大好きなんだとか、喜ぶんだとか、言いながらお祭りをしたんです。そうしたら、本当に保育園の子どもたちが大喜びし

てくれて、その親も大喜びしてくれて、毎年やるようになったという経緯は、ちょっとちっちゃいんですけれども、そのお祭りを、夏休みの一番最後の金曜日にする決めて、3年やっているところです。だから、小学生、すごいです。

そうすると、町の人たちも、小学生ってこんなことを考えるのかとか、こんなことができるのかと見直すチャンスにもなっていったし、中学生たちも小学生ってすごいんだと、中学生たちも見直していたと、そんなときがありました。

○議長 私が関わっている小学校の事例ですが、委員さんのひとりに地域にある鉛筆会社の方がいらして、小学生といっしょに商品開発をした話を聞きました。小学生は毎日、鉛筆を使うじゃないですか。それで、鉛筆で書いた文字をタブレットで写真を撮ったときに濃くはっきりと映る鉛筆の商品化を思いついたそうです。実際に発売されているそうです。地域にはいろんな人がいますので、今まで出会わなかった人たちとうまく出会うようにすると、中学生はもちろん、小学生でもいろんな可能性があるんじゃないかなと思います。いかがですか。

○委員 中学生、忙しいですからね。時間をどうするのかというのをやっぱり考えるでしょうね。あとは、前回もお話ししましたがけれども、中学校というのは、あまり頼らないで、本当に自分たちでやろうという気風に慣れていきますから、どこかに頼るといことはほぼしきないですよ。そういう部分ではどうなんでしょうね。なかなか難しい部分がありますよね。自己完結型というんですか、そういう形です。なので、もう少し、高校生とかそういう代と交流ができると、また少し変わるんじゃないかなと思います。やれそうなんですけれども、やれるモデルをまだ知らないの、そういうモデルが見えてくれば、もっと動けるのかなという気がしますね。

○議長 ありがとうございます。

○委員 忙しいとか、時間がないとか、おやじの会でも、勧誘すると、そんな余裕がないとか言われるんですけども、おやじの会のメンバー、この間のDVDもそうですけれども、面白いと思って自分で意欲的にやるときには人は動くんですよ。やらされていると時間がないとなるんですけども、自ら面白いと思ってやる人は幾らでも時間をつくるし、そこまでやらなくてもいいのにといい人はいっぱいいる。でも、子どもたちに一番教えなきゃいけないものはそういうことなんじゃないかと思うんですよ。勉強の中身より。自分が楽しいだったり、意義があると思うことを一生懸命やる。それが一番多分、知識なんかよりも大事なことなんじゃないかという気がします。

おやじの会は、お父さんたちがそういうやっているのを見て、子どもたちはそれを学んでくれればいいなと思ってやっています。よく忙しいから、時間がないから、そんな余裕はないからと言いますが、それはそうかもしれないけれども、それってやらされているからでしょ、と思いますけれどもね。

○議長 社会の在り方が変わってきて、人々の働き方とか、価値観が変わってきたときに、今後いろんなものが変わっていく可能性がありますね。

○委員 すごく仕事ができる人って、自らやっていますよね。そこまでやらなくてもいいのにというぐらい、自らやっていますよね。そういうのとかも、何かそれに通じる気がするんですよ。

○委員 ボランティア活動の意義みたいなのが子どもたちに出てくるといいですよ。

○委員 高校でそれが1単位になるというのが、都立高校でやっていたことがあったときには、うちのクラブに手伝わせてほしいといきなり高校生が来たりしていたことあったんですけども、そういうのは小学校とか中学校とかの授業の中で、地域に出ていく授業とかというのがつくられると、やっぱりそのくらいしないと忙しいから、そうやって授業で確保できないのかなというのは、ちょっと思います。

○委員 実は授業でやっているというか、授業時間以上に、まさに今日なんですけれども、うちはキャリア教育をやっていて、6年生が会社を経営しているんですよ。今日はお菓子を作る日で、地域で協力してくれるお菓子屋さんのところに行って、1時から6時になってもまだ終わらない。保護者の方にはもちろん了承も得ていて、6時半までには終わると思うよみたいな感じで、オリジナルお菓子を作ることにそこのお菓子屋さんが協力して、それが箱詰めして返礼品になるということを真面目にやっているんですけども、やっぱり理解していただく地域の方がいればすごく応援団になってくれています。先生が段取りをするのは、本当に外側というか、保護者との連絡とかだけで、あとは地域の方がやってくださるように任せていこうというふうに、ここ数年間やっているんですけども、やりたいと思ったことを時間かけてもやろうとすることは、みんな応援している。塾とかいろいろありますけれども、でも、やりたいと思う子がそういうことをやってもいいよ、というふうにしてやればできるかなとは思っています。

ほかにもあると思います。区内でそういうふうなことをしている学校が。いろんな特色を持ってやっていると思うので。やっぱり協力してくださる方が、さっきの人材ですよ。そこが問題かな。どういうふうに確保するかが問題で、逆にいっぱい売り込みがあり過ぎ

て、どれを取ったらいいか分からない状態になってくるので、そこをどう整理していけばいいかなということが次の課題になりつつあります。

○議長 大学でも、ボランティアの単位化というのをやっているところはあるし、議論もされています。そもそもボランティアに単位をつけるということ自体が変じゃないか、とか、単位をつけるとなると成績をつけることになるので、何をやったのか、レポート書きなさい、というようなことになりがちです。ボランティアなのだから、自分の時間を使って好きなように活動して、それが社会と繋がっていけばよい、と思うのですが、単位化するだったらこういう仕組みにしなくてはならない、というような発想は強いですね、先生方は。そうすると、ボランティアな精神にもとづく活動のはずが、だんだん自ら手を挙げてやる、楽しい活動ではなくなってしまうところが難しいところです。

○委員 ただ、いやいやでも行かなくちゃいけない、から、行ったら楽しかった、ということもたくさんあるので、何かそういうチャンスはつくってあげたいなという気持ちはあります。

○議長 確かに。大人を含めてですけれども、行くのは面倒くさいけれど、行ったら楽しい、ということありますよね。そういうことを、子どもだけに限らず大人もやってみる必要があるという気はいたします。

そのほか何かありますでしょうか。

次回、最終回になりますが、また全員で振り返りができたらいいかな、と思っております。

では、事務局、次回の内容や日程について、インフォメーションをいただけますか。

○事務局 今日いただきました御意見ですとか、また修正箇所が発生していますので、そちらを直したものを事前に提示させていただいて、御確認いただこうと思っております。

それから、日程に関しては、来月、3月を予定しております。

(日程調整)

3名の方が欠席されていることもありますので、後日、事務局から今までどおり予定を聞かせていただいて、御都合の悪い日をメールで返信していただければと思います。

○議長 ほかは何かございますか。この資料の説明はいいですか。

○事務局 これは東京都から年に数回発行されているものなのですが、情報提供ということで、お時間があるときにお目通しいただければと思います。

○議長 予定の時間までもう少しありますが、特になければ、これで11回目の社会教育の

会議を終えたいと思います。よろしいですか。

では、これで終了といたします。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。

午後 7 時39分閉会